

IWC「SAKE部門」ひろしま開催に係る機運醸成プロモーション業務仕様書等に関する質問と回答

質問No.	質問事項	回答
1	<p>企画提案時に、本イベントのオフィシャルロゴのデータを共有・使用させていただく事は可能でしょうか。</p>	<p>本プロポーザルの審査後に、委託事業者として決定した事業者にはお渡しできますが、企画提案の段階でロゴデータを共有することはできません。委託事業者として決定した事業者には、IWCのオフィシャルロゴ、IWC2026「SAKE部門」ひろしま開催のオフィシャルロゴデータを共有します。</p>
2	<p>広島県のプロモーションと東広島市のプロモーションとの広報、イベントの棲み分けのポイント、留意点をご教示ください。</p>	<p>広島県では、県産日本酒のブランド価値向上を目的としたプロモーションとして、IWC2026「SAKE部門」ひろしま開催に関連させた広報業務を実施すると伺っております。これに対し、本市のプロモーション（本業務）では、「IWC「SAKE部門」が東広島市で開催されることや、その状況について、来訪者やそれを受入れる地元住民等、東広島市に関わりや、関心を持つ人々を中心に伝えることにより、IWC「SAKE部門」ひろしま開催の機運を高めるとともに、日本酒のまちとしての認知を形成する」ことを目的としています。そのため、本業務で行う広報、イベントにおいては、市内の酒蔵や、市内で開催されるIWC関連イベントなど、本市にフォーカスした内容を題材として実施する点がポイントとなります。</p>
3	<p>仕様書 4(2)一般参加型企画の開催について 「企画内容には、IWCから審査会終了後に無償提供される出品酒の内、東広島市に分配される出品酒及び市内10蔵の酒を用いた内容を含めて企画をすること。」とありますが、過去の実績でどのくらいのお酒の量が分配されるか予測できるようであれば教えてください。 あわせて、想定する参加者層（市民・観光客・日本酒ファン等）や目安人数はございますか。</p>	<p>IWC2026「SAKE部門」ひろしま開催では、審査会終了後に無償提供される出品酒を、本市単独イベント用として四号瓶で500本程度供与される見込みと伺っております。ただし、実際の提供本数については、審査会終了後まで確定しません。 なお、IWCから提供される日本酒の産地や特徴は指定できないため、東広島10蔵の日本酒を追加購入する等の工夫を行ってください。 また、想定する参加者層としては、市民及び近隣市町の住民と考えております。 集客目標は、実際に提供される出品酒の本数が確定してから改めて決定しますが、2,000人程度の規模を想定しています。 出品酒を活用した企画は試飲イベントとしての実施を想定し、一般参加者から徴収した参加費等の売り上げにより利益が出た場合は慈善団体等への寄附が要件とされる予定ですが、現時点で詳細な要件が定まっていないため、具体的な運用については協議の上で決定していくようになります。</p>
4	<p>仕様書 4(4)その他について 「本業務の目的達成度を測定するためのKPI(評価指標)を設定し、測定・分析した結果を業務完了報告書に記載すること」とありますが、KPIの設定については、当業務における取り組みの進捗および効果を客観的に把握するための指標として用いるもので、当該数値の達成をもって業務成果の保証または契約条件とするものではない。という認識で相違ないでしょうか。 また、必ず含めるべき指標(例:PV、参加者数、SNS、投稿数、認知率等)はありますか。</p>	<p>ご認識のとおり、KPI(評価指標)の設定及び測定・分析結果の数値達成をもって業務成果の保証または契約条件とするものではありません。 含めるべき指標は提案内容によって変動するものと考えますので、提案内容に則した指標で、本業務の目的達成度を測るのにふさわしいものをご提案ください。</p>